

# 揺れる米中関係と日本の立場

慶應義塾大学名誉教授

國分良成



- \* 2000万円でも低所得世帯
- \* 聞かれない台湾有事の話
- \* 習近平個人だけが問題なのではない
- \* 胡錦濤が怒った理由
- \* 党規約を変えられなかった習近平
- \* 「台湾有事」はあるか
- \* 2018年に分水嶺
- \* ウクライナ後、米に歩み寄ろうとした中国
- \* 日本が戦ってくれる？
- \* 韓国の変化を喜ぶ米国

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日は國分先生に来ていただきました。説明するまでもなく日本の中国問題の権威としてずっとご発言をされています。慶応大学では法学部長を務められ、その後、第9代の防衛大学の校長先生として9年間お務めになりました。『防衛大学校』という本を中央公論新社から出されており、防衛大学校のことが細かくわかる珍しい本だと思います。

今日はそちらのほうのお話ではなくて、米中対立などを軸に現代中国の政治に関するお話をさせていただきます。日本の存在が海外で非常に弱くなっている中、先生は海外でも積極的にさまざまな発信をされています。それでは先生、よろしくお願いたします。（拍手）

國分 ただいまご紹介いただきました國分良成でございます。この会では久しぶりにお話を

させていただくことになりました。たぶん前から14、15年は経っているのではないかなと思います。それ以前は何回となくお話をさせていただきました。その後、今お話しございましたように防衛大学校に9年間おりましたので、外の講演がなかなかしにくいということもございましたが、教育事業に専念をしておりました。

それが終わって、もうすでに2年以上が経過しております。この2年間の最初の1年は防衛大学校の本を書くということに専念いたしました。そして、先ほどご案内ございましたように中央公論新社から出していただきました。おかげさまでまあまあ売れております。まだ1